

平成30年度 学校評価一覧表② 桐生市立川内中学校

評価設定 【A：80%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：49%以下】

評価対象	鑑 針		自己評価(総合)	学校関係者評価	学校関係者会員の意見	今後に向けての学校の考え (○よき ●課題)
	評価項目	具体的数値項目				
I 保護者との連携	1 生徒の活動の様子を保護者に連絡し、理解を得ていますか。	①保護者の80%以上が「学校や生徒の様子がわかる」と感じている。 ※保護者の80%以上が、学校の教育方針や活動に協力的である。	A	A	*学校は、学校便りや学年・学級通信、保護者会等の機会に、情報発信している。今後も、こうした取組を継続していくことをお願いしたい。	○保護者の86%が、学校や生徒の様子がよく分ると答えている。保護者会では学校行事の様子を映像で紹介している。普段から生徒の様子にきめ細かく目を配ると共に、些細な変化が見られたならば電話連絡や家庭訪問等を通して、保護者と具体的な対応について相談していくことを徹底する。また、欠席した生徒には必ず電話連絡をするなどきめ細かい対応を継続し、保護者との信頼関係を深める。 ●「学校や生徒の様子がわかること」と同時に「学校に保護者連絡、相談しやすいこと」も学校は重視している。『開かれた学校づくり・開かれた教育課程』を一層進める必要があると考えている。
	2 保護者は学校のことを知ろうとしていますか。	②保護者の80%以上が、PTA活動に年2回以上参加している。 ※保護者の80%以上が、学校からの通信物を必ず読んでいる。	A	A	*保護者が学校を訪問する機会が多く、多くの保護者は学校の状況を理解し協力的である。今後とも情報発信をお願いしたい。	○保護者の86%が、保護者会等に年に2回以上学校に来ると答えている。今年度は、家庭教育学級で「魔法のこぼし」「心とストレス」「家庭でできるキムチ作り」と年間3回実施し、のべ約50人の参加がみられた。今後も、限られた時間の中で有意義な時間が共有できるよう、魅力あるPTA活動を推進していく。 ○保護者の90%が学年・学級通信によく目をとすと答えている。月ごとに発行している学校便りや学年通信に加え、学級通信の充実を図る。また、ウェブページ等も有効に使い、教員にあまり負担をかけない形で、有効な情報が随時発信できるよう改善を図っていく。
II 確かな学力	3 生徒一人一人を大切に、日々の授業を行っていますか。	③生徒の80%以上が「授業がわかる」と感じている。 ④生徒の80%以上が、やる気や意欲が向上していると感じている。	A	A	*コンピューターを有効に活用した授業実践があった。今後とも実物投影機等を有効活用し、分かりやすい授業を行ってほしい。 *ICT機器を中心とした教育機器を有効に活用して、生徒が興味をもって取り組むことができるような投げかけをしてほしい。 *生徒が意欲的に取り組める授業になるよう、地域の人材を紹介して、うまく活用して行ってほしい。	○生徒の92%、保護者の82%が「川内中では、わかりやすい授業がおこなわれている」と感じている。 ○授業中の観察では、積極的に取り組む生徒と、受け身になってしまう生徒との差が大きいことが見受けられる。授業を行う際には、この単元でどのような力を付けたいのか、本時でどのような力を伸ばしたいのかを教師が明確にねらいをもち、それを常に意識して指導をしていく。また必ず評価を行い、その内容を次の授業にいかせるようにする。 ○授業では「本時のめあて」を確実に提示して授業の見通しを持たせるとともに、「授業のふりかえり」をすることで、学習内容の確実な定着を図っていく。また、TTや少人数指導の良さをいかし、学習の定着が不十分な生徒に対しては個別の支援をしていく。 ○生徒の82%、保護者の81%が学習意欲が向上していると実感している。生徒が意欲を持つためには「学習内容がよくわかる」等の達成感がある必要がある。あらためて基礎基本の定着を図るために、生徒個々の実態を正確に把握・分析し、適切な指導となるような授業改善を進めていく。また生徒が意欲的に効率的に学習に取り組めるよう、ICT機器の活用も積極的に行うようにする。
	4 自主的な学習習慣が生徒に身に付いていますか。	⑤生徒の80%以上が家庭学習の習慣を身に付けている。 ※生徒の80%以上が積極的に発言するなど、主体的に授業に参加している。	C	B	*昨年度から、川内地区生涯学習推進委員会主催で、『スマイル学習会』を毎週木曜日、公民館で行っている。地域としても、中学校の生徒の学習支援活動を行っていきたくと考えている。学校でもPRしてほしい。	○生徒の78%、保護者の59%が、計画的に家庭学習に取り組んでいると答えている。保護者の回答は高くなっているが、生徒の回答が若干下がっていることが課題である。家庭学習に意欲的に取り組ませるため、授業内容の確実な定着と、取り組める課題の精選や意欲の高まりを図るようとする。また、家庭学習には家庭や地域と連携が不可欠なので、家庭や地域の人を生かすために情報共有や提供を行う。 ●学習の定着が不十分な生徒に対しては、個別の支援を行う。 ●今後も、計画的に家庭学習に取り組めるよう「はばたく川内中学生の勉強方法」(川内中作成)を活用し、課題の出し方等の工夫を図る。
III 豊かな心	5 いじめのない温かい人間関係を育てていますか。	⑥生徒の80%以上が「先生は悩みやいじめの解消に努めている」と感じている。※生徒の80%以上が「困った時に相談できる先生がいる」と答えている。	B	B	*生徒と教員の関係は大変良く、体育祭や合唱コンクールなどの行事でも大変すばらしい成果を上げていた。今後もよい雰囲気を持てるよう、コミュニケーションを密にしていきたい。 *生徒の人数が少なくなってしまったので、人間関係が固定してしまわないような配慮をしてほしい。	○生徒の85%、保護者の86%が川内中では生徒の悩みやいじめの解消に向けた取組が行われていると答えている。心の安全点検(毎月)、学校生活評価表(毎学期)、を実施し、実態の把握につとめるとともに、教育相談部を中心とした組織的な相談活動を推進する。 ○生徒の66%、保護者の72%が困ったときに先生に相談していると応えている。毎月実施している「心の安全点検」や「学校評価表」の結果を活用し、教師やカウンセラーが保護者とも連携して、積極的に相談活動を展開している。今後も、アンケート「学校生活表」「心の安全点検」の結果を全職員で共有し、常日頃から生徒及び保護者と連絡を密にし、人間関係や心の変化を捉えた積極的な働きかけを一層推進する。また、教育相談部が中心となり、S・Cや教育相談員と連携し、組織的かつ積極的に相談活動を推進する。また、学級活動や道徳の時間などで生徒自らが自分たちの力でいじめをなくす活動を推進し、生徒がいじめを許さない意識と態度を育成できるよう、今後も指導を充実させていきたい。
	6 生徒は時と場に応じた適切な言動をとることができますか。	⑦生徒の80%以上が、近所の人、友達や教師に進んであいさつしている。 ⑧生徒の80%以上が、時や場、相手に応じた適切な言葉遣いをしている。	A	A	*さまざまな場で、挨拶をしている生徒が見られる。朝の登校指導時には生徒の方から挨拶をしてくれることが多い。 *コミュニケーション能力や人や状況に応じて対応の方法を変えられる力は大人になっても必要な能力なので、それを伸ばせるような指導を心がけてほしい。	○小、中人間関係が固定化し、それが孤立化を生まないように、日々の生活の中で生徒の様子を観察していく。情報共有も積極的に行う。 ○生徒の95%、保護者の92%が、子どもは家庭や近所の人に挨拶をしていると答えている。今後とも生徒会による挨拶運動や登校指導等を通して「適切な挨拶」を指導し、良さを伸ばしていきたい。 ○生徒の92%、保護者の96%が、時や場、相手に応じた言葉遣いができていると答えている。多少教員の認識と異なるため、日常生活のさまざまな場面で声かけをして、時や場、相手にふさわしい適切で正しい言葉づかいを身につけるとともに、将来にわたって必要になってくる「相手に応じたコミュニケーション能力」を高めていけるよう、より一層充実していくような指導を工夫して行う。
IV 健康・体力	7 生徒は基本的な生活習慣を身に付け、健康の維持、増進に努めていますか。	⑨生徒の100%が、毎日朝食をとってから登校している。 ⑩生徒の80%以上が、6～8時間程度の睡眠時間を確保している。	A	A	*朝食は、親が手をかけて作ってあげる必要がある。この結果から家庭が協力的なことがわかるのは良い。 *ただ、親が必要以上の収入を得るために子どもを犠牲にすることがないよう心がけたい。家族でコミュニケーションをとれる時間を確保できるようにもしたい。	○生徒の96%、保護者の96%が毎朝朝食をとってから登校していると答えている。朝食をしっかりと食べ、毎食後に歯磨きの習慣を付ける取組の重要性など、今後も自己の健康に係る意識を高めていく。また保健委員会による「ストレスチェック」「アウトメディア」も基本的な生活習慣の充実に役立てていく。 ○生徒の91%、保護者の83%が、健康に関する指導を実感している。学校保健委員会で「ストレスチェック」を行い、生徒の実態把握、分析、考察を行った。その結果を生徒の個別指導に生かし、心身ともに健康でいられるよう指導を充実し、家庭にも引き続き指導内容の理解を働きかけ、家族間でも共通理解を進めて、自分の健康増進に取り組めるよう、家庭での指導も充実していくように進めていく。
	8 生徒は日常生活の中で運動に親しんでいますか。	⑪生徒の80%以上が部活動や社会体育の活動に参加している。	A	A	*働き方改革の問題等もあり難しい面もあるが、十分工夫してもらい、部活動などのスポーツから学ぶことも多いので、できるだけ多くの時間、生徒と関わることができるよう対応をお願いしたい。	○生徒の93%、保護者の88%が部活動や社会体育などに参加していると答えている。保護者の回答が下がったのは部活動の取り組みが変わったことによるものだと考えられるが、本校では部活動の時間に対し、効率的に行えるよう、内容の充実を中心に、指導法の工夫を図っていく。そして部活動を続けることから学べることを大切にしながら、生徒が生涯にわたってスポーツライフを実現できることを目標として継続していきたい。
V 安全確認施設設備	9 施設・設備の安全管理や危機管理を徹底していますか。	⑫生徒と保護者の80%以上が、学校は安全だと感じている。	A	A	*引き続き点検を続けて、安全の確保に努めてほしい。	○生徒の90%、保護者の94%が、学校の施設・設備、危機管理などは安全だと答えている。2学期には防災クイズを行い、防災に対する知識を高め、3学期には地震等を想定した事前告知無しの防災避難訓練を実施し、身についた実践力を検証してみる。また今後は対応マニュアルをより一層充実させて地域や保護者との連携について検討を行いながら信頼関係をより一層高めていく。
	10 交通事故や不審者への対策を十分にとっていますか。	⑬保護者の80%以上が、パトロールや補導などの活動は、生徒の安全を守る上で役立っていると感じている。 ⑭交通安全指導や自転車の点検整備指導を、学期に1回以上実施している。	A	A	*交通事故の未然防止に向けて、危険箇所の事前調査や定期的な登校指導等を行う必要がある。 *歩行者、自転車の乗り方の両面からルールとマナー等を繰り返して指導する必要もある。	○生徒の82%、保護者の85%がパトロールや補導などの活動が有効だと感じている。桐生まつりや恵比須講時のパトロール、また、下校時における校区内パトロールで気になったことなどを定期的に生徒に伝えるなどの工夫をしていくと、危険箇所の把握を常に行い、情報として発信していく。 ○PTA生活指導部及び職員による登校指導を年間5回実施した。生徒会活動でも自転車点検を教師の指導のもと実施した。今後とも様々な場面で交通安全について生徒に働きかけていく。また不審者情報等もメール配信で保護者に伝え、パトロール等の協力を得た。こちらもより一層の充実を図る。
VI 進路・生き方	11 進路についての学習や指導態勢の改善・充実を図っていますか。	⑮生徒の80%以上が、進路学習等を通して自己の生き方を考えている。 ※生徒の80%以上が自らの学習や生活上の課題を意識している。	B	B	*一人一人の生徒は、良く努力をしている。今後も、進路に関する学習を継続的に、生徒の進路実現に向け、生徒と家庭の両面への指導をお願いしたい。 *成績だけで進路を決めることのないようにしてほしい。途中で何かあったときの我慢や辛抱ができるかにつながるので、希望や意志も大切にしてほしい。	○生徒の88%、保護者の77%が進路や生き方について考えるようになっていくと答えている。各学年ごとに進路行事や体験活動を伴ったキャリア教育の課題を具体化し計画的に指導を行ったが、今後も指導内容を見直し、改善を行ってより充実させ、それぞれの効果について生徒や保護者が確認できる取組を推進する。また地元の環境や人材を生かしながら「桐生を好きな子供を育てる」ことも心がけながら指導していきたい。 ○各教科におけるキャリア教育を充実させていくことで、自分の生き方について見つめ直し、働くことや学ぶことへの意欲を高め将来に対する夢や希望を高くするよう今後も指導を継続していく。 ○生徒の79%、保護者の82%が、将来の夢や進路について話し合っていると答えている。進学だけに偏ることなく、家庭と連携して、広く進路について考える課題を設定したことが成果をあげたと考える。今後ともキャリア教育を充実させ、成績だけ等の一部の情報だけで進路を決めてしまうようなことのないよう、学校全体での取組をより一層充実させていく。
	12 家庭では、生徒の将来の夢や希望について話し合っていますか。	⑯生徒の80%以上が、将来の夢や進路について親子で話し合っている。	A	A	*学校からの様々な機会での働きかけによって、不登校だった生徒の状態が好転してきている。継続して取り組んでほしい。 *不登校の生徒について、卒業に向けての指導をお願いしたい。	○不登校生徒や保護者との連絡を密に取り、多方面からの情報を共有し合い、専門家の意見も取り入れ、方針を協議しながら対応を進めていく。欠席生徒には段階的な対応(電話連絡→家庭訪問)を行い、常に連絡を取れるような関係づくりを心がける。
VII 組織・運営	教職員マネジメント	13 教職員は設定した自己目標の達成に向け、主体的に日常の教育実践に取り組んでいますか。	⑰教師の80%以上が、設定した自己目標の達成に向けて、主体的に日常の教育実践に取り組んでいる。	A		○教師の100%が、設定した自己の目標の達成に向けて主体的に日常の教育実践を行っている、と答えている。教職員の資質・能力の向上、学校の組織力の向上のために、今後も面談や日常の授業参観を通して教職員の状況を具体的に把握し、一人ひとりに応じたきめ細かい指導・助言を行っていきたい。
		14 校内服務規律委員会を定期的に開催し、常に教職員の服務規律確保に努めていますか。	⑱教師の100%が、服務規律確保を実行していると回答している。	A		○職員の100%が服務規律の確保を実行していると答えている。本校の重点課題及び行動目標を明記した「規律確保行動計画」を活用し、日常的に自分の行動を振り返るとともに、校内服務規律委員会等でも定期的に啓発し、積極的な情報提供を通して、職員共通理解の下、積極的な姿勢で規律確保行動計画をすすめていきたい。
	研修	15 校内研修は教職員の資質向上と授業改善に結びついていますか。	⑲教師の80%以上が、校内研修組織が整備され、見直しをもって効果的に研修が実施できたと回答している。	A		○教師の87%が校内研修の主題である「道徳の教科化に向けての準備」に視点を当てた研修を行えた。「一人一授業」を目標とした授業公開をはじめ、研究授業やそれに向けての模擬授業を通して、具体的な授業の組み立て方、評価をする手立て、発問や提示の工夫など、より実践的に「議論する道徳」を学んだ。また、講師を招いての知識の習得も取り組んできた。今年度に学んだことをいかして、来年度に迫った道徳の本格的な教科化に向けて、速やかな導入とより実践的な力を伸ばすことを目標として、継続して計画的に校内研修に取り組んでいく。
文書管理	16 各種文書・データ等は担当ごとに適切に管理されていますか。	⑳職員の100%が、データをPCやファイルに整理されていると答えている。	A		○職員の91%が、データをPCやファイルに整理されていると答えている。100%を目指すとともに、今後も、情報システム管理担当者を要としてサーバーでのデータ管理を充実させるよう指導していきたい。	